

4 研究の方法

(1) 個に応じた授業改善の研究

① 研究主題に対する共通理解と研究の構造、組織作り

研究に当たり三つの分科会を構成した。第1分科会（個に応じた授業改善と評価の充実）第2分科会（学習意欲を引き出す評価の工夫）、第3分科会（学業指導の充実）である。主となるのは第1分科会で、それを、補佐、強化する役目として第2、第3分科会がある。研修会で研究主題についての共通理解、特にPISA調査における読解力とはどのようなものかを資料をもとに研修した。

② 各教科における研究主題の設定

①での研修を受け、教科部会で各教科ごとの研究主題を検討し設定した。それぞれの教科の特性と生徒の実態を考え、どの力の育成に重点を置くか工夫した。また読解力の育成に関しては各教科共通して取り組むこととし、主題に組み入れた。各教科における読解力の育成とは、具体的にどのようなことか、そのために必要な学習活動、学習内容はどうかを検討した。

③ 年間指導計画の作成、実践、検証

個に応じた授業改善と評価の充実を目指し、それに対応した年間指導計画を全教科共通の形式で作成した。評価方法を考え、年間を6スパンに分割し指導計画を立てた。また、全教科で基礎コースと標準・発展コースの2つの指導計画を作成し、少人数授業、習熟度別少人数授業、TT授業、アシスタント・ラングージ・ティーチャー（以下「ALT」という）との授業、一斉指導の中での個別化の工夫などに対応できるものとした。年度末には、各スパンにおいて教科が育成目標とする力や、読解力がどの場面でどのように身に付いたかどうかを検証した。

④ 検証授業、研究授業での実践と分析

各自が設定した検証授業、研究授業、学校公開、授業参観等で指導案を作成し、研究主題を意識した授業改善に取り組んだ。単元、各授業のどの部分で、どのような方法で読解力、表現力、判断力、思考力を身に付けさせたいのかを明確にし授業に取り組んだ。

(2) 学習意欲を引き出す評価の工夫

① 学習相談の実施

年間指導計画における6スパンの区切りは、学期末や定期テストの終了時と重なっている。各スパンの区切りで単元テスト、まとめテスト、定期テストの実施及びその評価を出し、学習状況と共に生徒、保護者に通知した。また6スパンごとに学習相談をする際、全生徒を対象に三者面談を行ったスパンの区切りと、必要な生徒のみ保護者との面談を行ったスパンの区切りがあった。このインフォームドコンセントの考えを取り入れた学習相談を行うことが、生徒の次のスパンへの意欲的な取り組みにつながるよう指導を行った。

② 評価方法の検討、実践

スパンでの区切りごとの成績通知が行いやすいように、ポートフォリオによる、ファイル形式の通知表を作成した。評価項目に関しては、中間テスト後にあたる1スパン後と3スパン後の成績通知は、5教科の観点別評価（A・B・C）のみを評価した。

(3) 学業指導の充実

① サプリノートの活用と習慣付け

サプリノートと名付けた連絡帳兼生活記録ノートを作成し、全生徒に毎日記入するように指導した。サプリノートの記入事項は明日の授業の確認、持ち物、提出物等の記入、家庭学習の内容や時間の記録、1日の生活を振り返っての簡単な日記、土日の休日の学習や生活の記録、1週間を振り返っての保護者と担任のコメント記入欄がある。長期休業中の学習、生活記録も兼ねている。1週間継続して記入することで望ましい生活習慣や家庭学習の定着を狙ったものである。また生徒、保護者、担任（学校）の三者の交流を深め、信頼関係づくりの一助となることをねらいにおいた。

② サプリノートについてのアンケート実施と分析、検討

サプリノートの活用に関して、次年度に向けてより効果的に充実したものとなるよう、内容や形式の検討を行った。その資料として生徒と教師にアンケートをとり、その結果を分析し、次年度のサプリノートで改訂すべき部分は何か、生活習慣として定着させる指導方法の改善点は何かを検討した。

(4) その他研究に関連して

① 講師を招いての助言、指導、講演会

研究主題に関する考察、研究の方向性や方法、各分科会での取り組み方、実際の各教科での授業実践、研究授業等での指導、助言を得るために、講師を招き研修会、講演会をもった。

② P T Aとの連携

本校が取り組んでいる研究内容を理解を促し、さまざまな形で協力、連携を得るために、保護者への説明に努めた。平成20年度では、6月と12月の講演会においてP T Aと共に講演会を聞き、講師の指導、助言を得た。また研究主題や学習指導計画、評価の方法、教育相談の実施等を伝えるため、年度当初に学習の手引きを作成し、保護者会での配布、説明を実施した。

(5) 各分科会の取組内容（グランドプラン）

第1分科会

平成20年度に作成した全教科での基礎コース、標準・発展コースの指導計画をもとに、各教科で基礎基本の確かな定着と向上を目指した指導方法の改善を図る。特に各教科で作成した指導計画では、各単元で、育成しようとする読解力及び思考力・判断力・表現力とそれらをどのような指導内容と指導方法で育成していくかを示し、授業実践の中で取り組む。

また、国語・数学・英語・社会の教科においては、少人数授業・習熟度別授業を展開する中で、基礎基本の確かな定着と向上、読解力及び思考力・判断力・表現力の育成を図る。少人数授業・習熟度別授業を展開しない国語・数学・英語・社会以外の教科においても、作成した基礎コース、標準・発展コースの指導計画を活用し、生徒の理解度・習熟度に応じて、指導内容・指導方法の工夫改善を図る。

① 個に応じた授業改善→少人数授業・習熟度別授業の研究実践（国・数・英・社）

② 一斉指導の中での、個に応じた指導方法の研究実践（加配教員措置のない教科）

③ P D C Aサイクルを踏まえた、年間6スパンの指導計画の作成

（基礎コース、標準・発展コース）→試案モデル別掲

④ A L T、A T（アシスタントティーチャー）導入での指導方法の研究実践（英・導入教

科) (社会科については平成20年度まではTTによる実践)

- ⑤ 情報機器の活用や電子黒板の活用、ワークシートなどの教材教具の工夫、テスト問題の工夫など
- ⑥ 指導技術・授業力の向上

第2分科会

生徒とのきめ細かな学習指導・学習相談の充実を図るとともに保護者との連携を深めるために、年間6回の成績通知を行うとともに効果的・効率的な成績処理や評価システムの確立を図る。

- ① 年間6スパンの指導計画の検討と計画表の提示
- ② スクールマスター(トータル教務処理システム)を活用した成績処理、成績通知、通知表等の評価システムの工夫と改善
- ③ ポートフォリオによる通知表の改善と活用
- ④ インフォームドコンセントの考え方を生かした学習相談の実施計画と、各教科の評価情報の集約の工夫(学年・学級担任)
- ⑤ コンピュータの教育利用

第3分科会

学習指導を支える学習習慣の定着と家庭との連携強化の方策として、年間6回の成績通知を活用した学習相談の実施と「生活と学習のサプリノート」の実践を行う。

- ① 生活と学習のサプリノートの活用(学年・学級経営、道徳、各教科との連携で位置付け)
 - 家庭学習の充実やレディネス指導、基本的生活習慣の確立等での活用検証
 - 生徒の生活実態、状況の把握、家庭との連携
- ② 母校愛と誇り、豊かな情操の育成

(6) 各分科会ごとの研究計画

分科会 年度	第1分科会	第2分科会	第3分科会
	上村・各教科主任	田中・評価システム検討委員会	平沢・学年主任・担任
19 年度	実態調査と分析 課題の明確化 指導計画試案作成 検証授業 まとめ	指導計画試案の提示 成績通知の試行 評価システムの検討 コンピュータ活用の情報提供 まとめ	実態調査と分析、課題 サプリノートの試行実践 学年・学級経営での位置付けの検討
20 年度	指導計画の作成 検証授業 生徒の変容の分析 メリット、デメリットの分析 まとめと次年度構想	指導計画の見直し試案の提示 成績通知、通知表等の見直しとメリット、デメリットの検証、ポートフォリオの検証 コンピュータ利用の分析	課題克服のためのサプリノートの活用実践 生徒、保護者の変容 学級経営・道徳・各教科との関連付けの明確化 まとめ
21 22 年度	指導計画の完成 検証授業 生徒の変容とメリット、デメリットの分析 研究のまとめと考察 今後の課題 研究発表	成績処理、成績通知、通知表等、評価システムの開発 メリット、デメリットの分析 研究のまとめと考察 今後の課題 研究発表	サプリノートの活用実践 生徒・保護者の変容とメリット、デメリットの分析 研究のまとめと考察 今後の課題 研究発表

(7) 指導計画のモデル試案

① 指導計画について

本校生徒の学力（知識・理解）を大まかに分析すると、約4割強の生徒が標準的な学習内容の定着がきわめて不十分な状況にある。そこで、授業の中で、個の習熟度に応じた学習を展開するため、学習意欲を高めるためのきめ細かな評価を行い指導に活用する。基礎コースカリキュラムと標準・応用コースカリキュラムを作成し学習指導の充実を図る。

② 指導内容の6SP（スパン）の指導計画

ア 指導内容を単元のまとまり、単元構成、関連事項で再整理し年間6SPに区切る。

基礎的な内容を中心とするものと学習指導要領に照らして標準的・発展的な内容を中心とするものとの2通りを検討する。

イ 6SPについて

年を6SPに区切り、1SPを15～17時間で単元構成をする。

1SPは約1.5ヶ月 時数で15～17時間

1 SP	①	2 SP	②	3 SP	③	4 SP	④	5 SP	⑤	6 SP	⑥
------	---	------	---	------	---	------	---	------	---	------	---

★ ①③⑤では、単元テスト、まとめテスト（必要に応じて）の実施及び分析的評価と学習状況の通知、必要な生徒・保護者へインフォームドコンセントの考え方を生かした学習相談を行う。

★ ②④⑥では、単元テスト、まとめテスト（必要に応じて）の実施及び分析的評価と総括的評価学習状況の通知、必要な生徒・保護者へのインフォームドコンセントの考え方を生かした学習相談を行う。

★ 自己評価や学習状況、成績通知は、ポートフォリオによるファイルで行い、学習状況の自己管理及びインフォームドコンセントの考え方を踏まえた学習相談に生かす。

★ 1SPごとに生徒の自己評価なども行っていく。

◎インフォームドコンセントとは、生徒や保護者が学習や生活状況について十分説明を受け、同意の上で次の取組を行うことである。

<基礎コースカリキュラム>

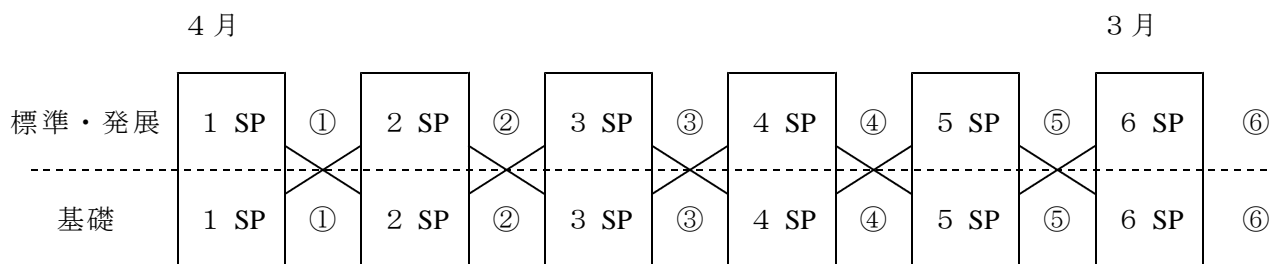
指導内容の厳選を図り、習得型の学習を主とし、指導内容への知識、理解を標準へと導く内容で構成する。

<標準・発展コースカリキュラム>

標準的な指導内容と活用・探究型の学習内容で構成する。

標準・発展	1 SP	①	2 SP	②	3 SP	③	4 SP	④	5 SP	⑤	6 SP	⑥
基礎	1 SP	①	2 SP	②	3 SP	③	4 SP	④	5 SP	⑤	6 SP	⑥

* 各教科で研究計画にそって検証授業を行い授業改善の成果について検証する。特に、少人数指導や習熟度別授業では、生徒の変容を数量的にとらえる研究の工夫を図る。



* それぞれのSPを区切りとして、知識・理解の到達度により、コース変更を行う。

(8) 成果等の把握と検証の手立て

- ① 検証授業
- ② 全国学力学習状況調査経年比較 区学力サポートテスト経年比較
- ③ 生活と学習のサブノートの実績評価
- ④ 学校評価（生徒アンケート・保護者アンケート）

分科会 年度	第1分科会	第2分科会	第3分科会
	上村・各教科主任	田中・評価システム検討委員会	平沢・学年主任・担任
20 年度	指導計画の作成 検証授業 生徒の変容の分析 メリット、デメリットの分析	指導計画の見直し 成績通知、通知表等の見直しとメリット、デメリットの検証 ポートフォリオの検証 コンピュータ利用の分析	課題克服のためのサブノートの活用実践 生徒、保護者の変容 家庭学習時間、授業の準備、生徒理解、生活習慣など道徳・各教科との関連付け
21 年度	指導計画の完成・見直し 検証授業 生徒の変容とメリット、デメリットの分析 研究のまとめと考察 今後の課題 研究発表	成績処理、成績通知、通知表等、評価システムの開発 メリット、デメリットの分析 研究のまとめと考察 今後の課題 研究発表	サブノートの活用実践 生徒・保護者の変容とメリット、デメリットの分析 研究のまとめと考察 今後の課題 研究発表
22 年度	指導計画の完成 検証授業 全国学力学習状況調査経年比較 区学力サポートテスト経年比較	成績処理、成績通知、通知表等、評価システムのメリット、デメリットの分析 研究のまとめと考察 全国学力学習状況調査経年比較 区学力サポートテスト経年比較	サブノートの活用実践 生徒・保護者の変容とメリット、デメリットの分析 研究のまとめと考察 全国学力学習状況調査経年比較 区学力サポートテスト経年比較